
Jump! Let U go 2 The Rainbow!

unbelievable_kazoo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Jump! Let U go 2 The Rainbow!

【コード】

N6213T

【作者名】

unbelievablekazoo

【あらすじ】

主人公の小松未来が海の遙か遠くに見える虹の所まで小型飛行機で行く物語。虹の所まで、ただひたすら空を飛んで行きます。

出発！

小松 未来^{みらい}、虹を目指して飛び立つ日がやって来た。

数年前に海の遙か向こうに見たあの虹の正体を確かめたくて、未来は一人乗り専用小型飛行機をお金持ちのおじいさんから借り受けた。銀色の機体、プロペラが機体の先頭に一つ、それと羽の部分にいくつも付いていて、機体の表面には太陽光パネルが何枚も取り付けられている自家発電型の小型飛行機。ガソリンも水素燃料も一切使わずに空へ飛び立てるこの小型飛行機を手に入れた未来は、手に入れた次の日にさっそく海から一番近く長い直線道路のところまで牽引車に繋いで運んで行った。道路は全て勝手に通行止めにした。『工事中』の標識を直線道路の入口と出口に置いておいた。

おじいさん、ありがとうございます。僕は行ってきます。

小松 未来、十一歳。未来は小型飛行機に乗り込み、操縦席に座った。

エンジンスイッチを押すと激しい音と振動が未来を襲った。未来の尻が振動によって少し浮いた。

しまった。シートベルトを忘れていた。

急いでシートベルトを締めた未来。未来の体はいまシートベルトによって操縦席に抑えつけられている。

プロペラを回すためのスイッチを入れると、新たな轟音と震動が機体に加わった。前からと後ろからと伝わってくる轟音と震動が未来の心を沸き立てる。

行ってきます。みんな、必ずあの虹の正体を見てくるから。

未来はハンドルを握り、ハンドルに付いていた離陸ボタンを押そつとした。

すると、サイドミラーにこっちに向かってくる馬鹿でかい車が見えた。

やばっ、おじいさんが来た！

黙って借りたことがばれたらしい。未来はおじいさんに捕まる前に離陸ボタンを押した。

思いつきり超加速した小型飛行機。その速さに驚いた未来は思わず声をあげてハンドルを引っ張った。

飛行機はいつきに浮き上がり、そのまま空へ飛びあがった。地上五十メートルのところまで飛び立つにつれ、徐々に機体が垂直になっ
ていき、そしてそのまま逆さになるうとした。

ハンドルを戻さなきゃ！

このままでは機体は一回転する。そう思った未来はハンドルをいつきに元に戻した。

徐々に機体は海と平行になっていく。やがて、未来の乗る小型飛行機は安定した飛行をはじめた。

やった！ みんな、行つてきます！

海で多分見送りをしてくれているおじいさんとその一同に対して言
ったつもり未来。空は快晴、白い雲が前方にところどころ見える。見えるもの、全てが輝いて見える、青、白、そして、

あっ！

虹が見えた。あの虹が見えた。

未来はアクセルを上げた。その虹に向かうために。

「あーあ。アスファルトがめっちゃくちゃだ。焦げ付いちゃってるよ」

若いメガネをかけた白衣姿の男が言った。

「はあ、まさか本当にいくとは、なあ……」

白髪だらけのおじいさんがため息混じりにそう言った。

「どーすんの？ とりあえず追っつ？」

「いやあ、いいだろ。墜ちそうになったらこの感知器が教えてくれる」

おじいさんが小さな黒い通信機をポケットから取り出した。

白衣姿の男がそれを見て言った。

「ま、それが鳴らないことを祈るばかりだ」

「まっただ。鳴ってもここからじゃどうしようも出来ない」

二人が息を合わせて頷いた。うん、行っちゃまったんだ、どうしようもない。

その隣にいた男の子が二人を見て我慢出来なそうに叫んだ。

「冗談じゃありませんよ！ 何とかして下さいよ！」

未来と同じぐらいの年頃の男の子だった。

「あれには僕が乗るつもりだったんだ！ 未来の奴、先に乗りやがって、ちくしょう！」

腹を立てているその男の子を見て二人は「ま、諦めて」と笑って言った。

「ま、無事を祈りましょ」

そう言って二人はここまで来るのに乗って来たキャンピングカーに戻って行った。

男の子は未来が飛び立った空を悔しそうに見つめていた。舌打ちをして振り向くと二人がキャンピングカーに戻ったことに気がついたらしく、急いでそこへ向かった。

キャンピングカーのドアを開けると二人の歓声が聞こえた。

「それでは、我々の小型飛行機が飛び立ったことへの成功に、がんばーい！！」

二人は瓶ビールを片手に持って乾杯すると、美味しそうに飲み始めた。

「どうしてそうなるんですか！ 帰りも僕が運転するんですか!？」

男の子が叫んだ。二人はそれを聞いて大笑いして、そして瓶ビールを勢いよく飲み干した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6213t/>

Jump! Let U go 2 The Rainbow!

2011年10月8日23時28分発行